

## 認定介護福祉士としての取り組み

認定介護福祉士 新潟県介護福祉士会所属  
丸山 義紀

(はじめに)

私の勤務している事業所は、新潟県の県央地区にある三条市で地域密着型通所介護・総合事業現行相当(定員12名)と総合事業サービスA事業(定員3名)の計15名を運営している。私の役職は、デイサービスの生活相談員であるが、介護福祉士の立場としても、現場で日々、ご利用者様と関わっている。

認定介護福祉士養成研修を受講し、以前にも増して、地域包括ケアや地域共生社会の実現に関心を持つようになったことから、ここでは、これに関連する事項について述べさせていただきます。

(認定介護福祉士養成研修を受講した成果)

地域包括ケアや地域共生社会については、高齢者に限らず、住み慣れた地域で暮らし続けることを望んでいると考えており、私の勤務している三条市の地域の皆様も同様に、そう考えておられる方が多いと感じている。そのため、重度の要介護状態に至っているご利用者様であっても、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活ができるよう、自分なりに、業務へのかかわり方や事業内容の工夫をこらし、よりご利用者様の立場に立った支援を心掛けている。特に、認定介護福祉士養成研修を受講し始めてから、このスタンスで業務に向き合うようになっており、自分自身も、ご利用者様が関わられている医療関係者や他のサービス事業者など、他職種・他機関との連携が必要不可欠であることを実感できるようになってきた。これこそが、認定介護福祉士になった成果であると感じており、今後も、同様のスタンスで業務に向き合っていきたいと考えている。

(私の事業所での取り組みの紹介)

介護サービスの提供に当たっては、それぞれのご利用者様がどのような生活背景を持っているのか等をしっかりと把握したうえで、個別に向き合うことが大切である。そこで、私たちは、ご利用者様の今まで歩んでこられた人生を振り返りながら、得意の分野をデイサービスの中での役割として発揮でき、さらには行動の幅を広げ、地域にも貢献できる何かを一緒に探していけるサポートに繋げていけるような工夫を取り入れた。具体的には、ご利用者様の日々の活動にポイントを付与し、このポイントが一定程度貯まったら、ご利用者様のご希望を叶える、という仕組みの導入である。これまでのポイント還元の実績としては、ご利用者様自身の実家に行く、美味しいものを食べに行く、近くの温泉に行くなど、スタッフが付き添いをした外出支援などが挙げられる。この取り組みを通して、日々の活動を楽しみつつも、その先に、それぞれの希望を叶えられるという張り合いを感じていただくことができるようになったと感じている。これからも、ご利用者様一人ひとりの思いに寄り添った支援を展開していきたいと考えている。

(地域課題への対応)

私が担当しているデイサービスでは、平成28年度より地域密着型サービスに移行となり、それと同時に地域運営推進会議の開催が義務づけられた。この会議では、

地域の自治会長、民生委員、行政の方などが集まり、意見交換が行われるため、現状の地域を知ることができる。ここで身近な地域住民との接点を持つことができるため、現状の「地域の課題」が何かについては、より把握しやすい環境がある。そして、ここで把握した地域の課題等に対応するため、私の勤務している法人では、介護保険外の事業である「ふらっとカフェ」や「たすけあい事業」、「わくわく食堂（こども食堂）」等を展開している。しかし、今後増加することが見込まれる認知症の予防の支援が十分ではないと考えている。

そこで、法人の事業として、認知症カフェ事業を企画したいと考えている。この事業には、気軽に当事者やその家族が参加して閉じこもりを予防したり、情報交換を行ったり、趣味などを楽しんだりする機能がある。地域の方々が気軽に参加できる場所の提供は、種々行ってきていることから、私たちの法人が担うにふさわしい認知症施策のひとつであると考えている。

また、デイサービスにおいては、最近、総合事業（要支援者や事業対象者）のご利用者様が増加してきている状況もあり、介護予防の観点から、身体的なりハビリ（運動機能向上）を重視した支援を行いつつ、認知症の進行を抑制できる独自のプログラムを作成し、認知症利用者への適切な対応を進めてきている。しかし、医療と介護の連携の中で、今後、どのような機能を果たしていくべきかを考える中で、大きな課題があると感じている。例えば、医療ニーズを抱えたまま在宅復帰された高齢者を、デイサービスが受け入れられないままでは、デイサービスが地域のニーズに応えられなくなるのではないかという課題である。これに対応するためには、退院後の生活を支えるための連携パスを地域でどのように作っていくか、デイサービスでどこまで受け入れ態勢を整備していくかを、今後、行政を巻き込みながら検討して参りたいと考えている。

今後も、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現を目指すなかで、自分が担当している事業ないしは法人全体としてどのような方向で事業を展開していくことが求められるのか、これからも継続的に向き合っていく所存である。

（最後に）

認定介護福祉士として、研修（600時間）で学んできたことを無駄にしないためにも、介護福祉の専門職として、これからの地域福祉に貢献していきたい。その為にも医療や行政など多職種との連携も図りながら、対等の立場で意見が言える認定介護福祉士でありたいと考えている。

